（様式１）

令和２年度学力向上のための重点プラン【中学校】

新宿区立新宿西戸山中学校

■　学校の共通目標

授業作り	重点	すべての教科の総合ポイントにおいて新宿区平均値を超えるために、下位層の学力向上を目指す。生徒が意識的に分かるような可視化した授業の目的を立て、１つの授業で学びを増やす。	最終評価	
環境作り		「ねらい」と「振り返り」に焦点を当て、生徒参加型の発言や表現を中心とした活動を授業の柱とする。授業についていけない生徒には補充学習を行い、授業に参加できる目標を定める。		

■　教科の取組内容

教科	令和元年度の定着度調査や６月以降の学習状況に基づく分析	学力向上に向けての生徒の課題	改善のための取組	追加する取組等（12 月）	年度末の取組評価（２月）
国語	学【第１学年】授業内における音読や聞き取りのテストでは丁寧に答えることができている生徒が多い一方、書くことに重きを置いたワークシートや記述で答える考査での問題には課題が見られる。 調【第２学年・第３学年】 ・旧１学年では「読む能力」、旧２学年では「読む能力」と「言語についての知識・理解・技能」で目標値を上回っているが、それ以外の項目はいずれも目標値を下回っている。さらに、１学年では「国語への関心・意欲・態度」と「書く能力」、２学年では「書く能力」でそれぞれ目標値を５ポイント以上下回る結果となった。 ・２学年での「書く能力」の問題は、前半の回答率・正答率は高いが、最後の大問では回答率が極端に落ちていた。 学 ・外国籍の生徒も多く、授業のノートをとることも困難な生徒もいる。提出物は多くの生徒は期限を守って提出するが、「出さない・やらない」生徒も一定数いる。	【第１学年】書くことに抵抗を感じる生徒が多く、記述の問題に苦手意識をもっている。「話す」という表現力は身に付きつつあるが、それを文章に書き表す「書く」力を伸ばす必要がある。 【第２学年・第３学年】 ・学習に対する興味や関心を高める。 ・授業の流れや授業中にやるべきことをわかりやすく生徒にガイダンスし、理解・実行させる。 ・家庭学習を定着させる。 ・書く能力を１学年から段階的に高めていくような学習計画を立てる。 ・作文コンクールや俳句コンクールへの全員参加を引き続き計画実施し、生徒に学習活動への関心意欲をもたせるとともに、より良い活動につながるきっかけとする。 ・２学年での学力調査の結果から、試験時間内に回答する練習、問題を解く順番を変えるなどの工夫を学ぶ機会を持つことも必要と考えられる。	【第１学年】文章の構成の仕方を改めて指導し、書くポイントを捉える。それから、授業で使用するワークシートにおいては記述する項目を増やしたり、教材を読んでの感想文を書いたり、あらゆる単元で書くことに慣れさせる。 【第２学年・第３学年】 ・国語科の教科会を定期的に行い、学年ごとの段階的な指導計画をつくり、実行する。また、それぞれの教員の授業での工夫を共有し、生徒が授業に対して関心意欲を高めるような指導方法を計画実行する。 ・ＩＣＴをうまく取り入れた授業の工夫をする。これも教科会での共有を図る。 ・年間の作文コンクールや俳句コンクールを見直し、生徒一人一人が無理なく、意欲的に取り組めるように計画を立て実行する。その際、授業の年間計画と連携して、単元指導と連携できるようにする。 ・定期考査時に、「試験を受けるにあたるスキルや工夫」を指導する。		
社会	[第１学年]学校休業中の課題プリントの提出状況は、１００％であった。空欄のままや、採点していない箇所がある生徒も１クラス３～５名ほどいたが、概ね良いスタートがきれた。また、いろいろな国の国名３０か国を答える小テストでは、３４％が満点だったが、５か国答えられない生徒も１０％おり、基礎学力が不足している生徒も目立つ。 [第２学年]昨年度との比較で予習をする習慣がついてきている。結果として、考査等での各観点に於いて達成率が１０ポイント以上向上しており、極めて効果的であった。苦手であった記述、解説型の回答についても若干の向上が見られた。	「第１学年」基礎基本の理解を深める必要がある。論理的な思考や資料に基づいた判断にも課題が多く、まず社会的事象に対する関心意欲を高める工夫が必要と考えられる。 [第２学年]資料活用、論理思考などの場面で表層的な理解に終わってしまう生徒が多い。深い考えを導き出す問いかけや工夫が必要だと思われる。特に地理分野において基本的な知識の不足が目立ち、視点を変えると理解ができない生徒もおり残念である。	[第１学年]毎回本時の目標とまとめを確認することと、ドリル練習を繰り返すことで、基礎基本を定着させる。ノート整理を通して、学力向上の意欲を喚起していく。そのために、生徒のまとめ方、発想力、表現力等の優れたノートを提示する回数を増やしていく。 [第２学年]今後も教科書、プリントを使った予習や確認のための小テストを続ける。加えて地図帳の使用機会を増やし、地図に慣れることや、資料の読み取り機会を増やす。		
数学	調（１学年）全体的に目標値を達成することができている。正の数・負の数の知識理解の観点に関しては目標値を下回っている。 （２学年）全体的に目標値を達成することができている。式の計算の「文字式を使って説明することができる」内容についてのみ、目標値を大きく下回っている。 学 目標値に達していない内容を分析すると、知識理解の観点の理解度が低いことがわかる。問題を解くことを重視していて、一つ一つの用語や性質に目を向けていない生徒の課題が浮き上がる。	・学習内容がその時間だけで完結してしまい、計算手順のみを、覚えようとするので、時間が経つと忘れてしまい、他の内容と結び付けて考えられない生徒がいるので、基礎学力の定着に結びついていない。 ・演習の時間が多くとれず、定着に結びついていない。 ・答えが出たらよしとして、その他の解き方など様々な考え方を模索しようとしない。	・知識の定着として図形分野・関数分野も含んでいる計算問題を、授業の開始５分間を毎回行う。 ・「めあて」「課題」「暗記事項」の項目を活用して、どの生徒にとっても分かりやすい板書計画を立てる。 ・習得・活用・探究の学習過程全体を見渡しながら、「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」の三つの視点に立った活動を取り入れる。 ・グループ学習を取り入れて、知識理解を応用させた様々な解き方を考えさせる。		

理科	調 ・全ての学年、全ての観点において全国および区の平均正答率を下回っている。 ・実験や観察結果が示唆するものを考察するような出題に対する正答率および１学期や前学年時に学習したことに対する正答率が低い傾向がある。 学 ・授業等で与えられた課題にはおおむね真面目に取り組む一方で、用語等の意味理解に課題があり、習得した知識をもとに、自然事象について説明することが苦手である。 ・理科に興味をもっている生徒は多く、実験や観察には意欲的に取り組む生徒が多い。一方で、その実験結果が何を示唆しているかを考察し、説明することに課題が見られる。 ・理科に関する興味・関心そのものが不足している生徒もいる	・意欲的に学習に取り組む姿勢、雰囲気作りをすること。 ・用語等の意味理解を定着すること。 ・習得した知識をもとに、説明すること。 ・注意深く観察し、記録すること。 ・実験結果が何を示唆しているのか、考察し、説明すること。	・意欲的に学習に取り組む生徒をふやす。 興味・関心を高める題材の工夫。 授業の内容がわかった、できたという成功体験をふやす。 ・基礎・基本的な知識、技能を確実に定着させる。 ノート指導を定期的に行う。問題演習を定期的に行い、知識の定着をはかる。生徒同士で説明活動を取り入れる。 ・観察や実験の結果から筋道を立てて考察し、自分の言葉で表現する経験をふやす。 ワークシートを工夫し、文章表現で記述させる。 グループでの話し合い活動などを取り入れる。		
英語	学（1年生）・アルファベットや単語を、意欲的に音読することができている。英語らしい発音を意識している生徒も多い。・単語を読むことはできるが、書くことが得意でない生徒も多い。・授業に忘れ物をしてくる生徒がいる。 （2年生）習熟度別の基礎クラスは基礎力が乏しく、なかなか学力が定着しない。発信する力も弱く、失敗を恐れる傾向がある。 （3年生）授業では積極的に取り組む姿勢が見られ、小テストなどにも意欲的に取り組んでいるが、長文となると気持ちが萎えてしまう生徒も少なくない。 調（2年生）ほとんどの項目で全国を上回るも、区内の平均には及ばない。「長文の読み取り」は区平均よりも5.1ポイント、「3文以上の英作文」では8.6ポイント低い。 （3年生）長文の読み取りの力が少し弱い。	（1年生）・期末テストでは単語を正確に覚えておらず、スペルを間違えていたり、ケアレスミスをしたりする生徒が多かった。小学校気分が抜けきらず、安易に点数が取れるという油断が見られた。 （2年生）・「長文の読み取り」の中でも「読み取った内容をふまえて、メールの中の適切な語を書くことができる」が8割以上の生徒ほとんどかけていない、「3文以上の英作文」もできていないので、「書くこと」が弱い。 （3年生）長い英文を読み切る力が弱く、内容を理解して問題を解くまでの力が必要だと感じる。	（1年生）・家庭学習用のノートを用い、その日に習った単語や英文をその日のうちに復習として書く練習をさせる。また、それを習慣化する。英語の基本的なルールや規則性に気づかせ、注意して覚えるように指導する。・問題を解かせて、基礎力だけでなく応用問題にも対応できる力を身に付けさせる。 （2年生）・「書くこと」に焦点を当てて、アウトプットさせる機会を増やす。特に下位層では苦手意識を持っている生徒が多いため、短い文章や、簡単な表現からスモールステップでゴールを設定する。 （3年生）教科書の内容だけではなく、初めて見る英語の長文を習熟度別に長さを変えて訓練する必要がある。		

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況　　学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況　　※分量は2ページ以上となってもよい。